



①

1



②

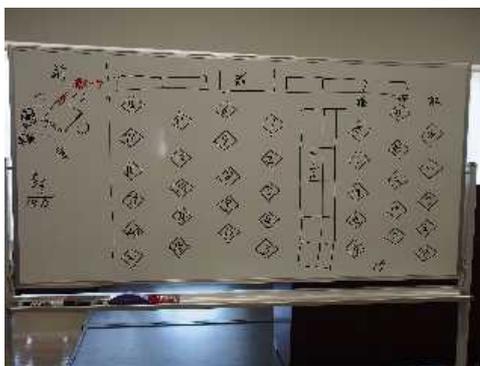
2

第29回静岡県すこやか長寿祭スポーツ・文化交流大会の競技の一環として「健康マージャン競技大会」が5月5日、静岡県総合社会福祉会館にて開催されましたのでその様子についてご報告致します。(写真①②)



③

3



④

4

本大会の主管は「NPO法人しずおか健康麻将の会」です。(写真③)

あれ？字が「麻雀」ではないんですか？

そうです！世間一般で認知されている「麻雀」とは異なり、「賭けない」、「飲まない」、「吸わない」をモットーとし、細かくは日本健康麻将協会の健康麻将マナー15か条に則っています。「自分に厳しく人にやさしく」を基本に心がけています。

会場内は「大会競技コース」(21卓、84名)と「おまつりコース」(15卓、60名)に分かれます。「大会競技コース」は5秒以内に打つことができ、上がり役がしっかり言えて点数が出せる人が参加するコースで、最終結果の上位者が表彰され、そのうち静岡市内の方を除いて上位4位までが「ねんりんピック富山2018」の静岡県代表選手として選考対象となります。「おまつりコース」は初心者対象で、順位とは関係なく大会を楽しんでいただくためのコースです。

正面のホワイトボードにコースごとの卓が配置され、あらかじめ決めてあった組合せに従い所定の卓に付きます。(写真④)



⑤

5



⑥

6

まずは大会委員長の松村範子さんの開会挨拶と競技方法、注意事項について説明がありました。(写真⑤)

ルールは「健康麻将全国オープン戦ルール」に基づいています。概略は喰いタンあり、後付けありで、東南戦、25,000点持ちです。半荘60分ごとに1位には+12,000点、2位には+4,000点、3位には-4,000点、4位には-12,000点の順位点が加算されます。半荘4回の合計点を算出して最終順位が決まります。

大会委員長である松村範子さん(写真⑥)は若い頃からマージャンに親しんでこられ、その後ブランクがありました。家事に余裕が出てきた40歳過ぎから再び始められました。当時は京都の教室で、講師の資格が得られる関西連盟4段を取得されました。平成15年に静岡に越してきて、平成19年8月に「NPO法人しずおか健康麻将の会」を立ち上げました。以来、会員数は静岡サロンと焼津サロンを合わせて450人を数えるまでになりました。



⑦

7



⑧

8

会場内には競技を取り仕切る審判員や、「おまつりコース」で点数がわからないなどの対応として学生さんのボランティアスタッフも待機しています。(写真⑦)
いよいよ競技のスタートです！(写真⑧⑨)



⑨

9



⑩

10

今回の大会参加者で最高齢の男性は加藤元さん84歳です。(写真⑩)この大会には5年ほど前から参加されています。



⑩

11



⑪

12

最高齢の女性は川村幸子さん88歳です。(写真⑪)大会参加は10年ほどになりますが、当初苦労したルールの理解も進み、今ではとても面白く楽しんでおられます。

富士・富士宮地区担当の生きがい特派員である原義廣さんも競技に参加していました。(写真⑫)



⑫

13



⑬

14

半荘ごとにトップ賞の方はどら焼きがもらえます。「はね満賞」は豆菓子、「倍満賞」はクッキーです。(写真⑬)

4回戦が終わり、合計点の算出時間の間は余興として「浪蔵笑劇団」による寸劇を楽しみます。(写真⑭)

お題は「浪蔵じいちゃんを守れパート2 認知症高齢者への接し方」。会場の皆さんにも身近なテーマでもあり共感を誘っていました。



⑭

15

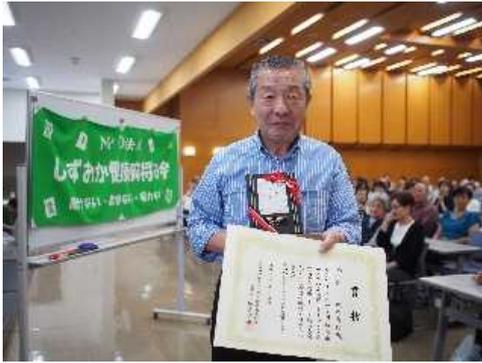


⑮

16

「大会競技コース」の優勝者は小川貢さん(写真⑮)、準優勝者は小林正義さん(写真⑯)、第3位は

堀内義信さん(写真⑰)でした。おめでとうございます！



⑰

17



⑱

18

「おまつりコース」ではなんと！役満「四暗刻」が2回も出ました。初心者コースらしく、上がった本人も役満だとは理解しておられなかったようです。意外と狙わない方ができるのかも知れませんね。「役満賞」の缶ビール贈呈は実に微笑ましい光景でした。(写真⑱⑲)



⑲

19



⑳

20

集計結果から、ねんりんピック富山2018への静岡県代表選手として選考対象者が発表され、4名とも出場を表明されました。(写真⑳)

写真右から小川貢さん、原義廣さん、前嶋茂さん、西川信雄さんです。静岡県の代表としてご活躍を期待しています。富士・富士宮地区担当の生きがい特派員の原義廣さんもみごと出場を勝ち取りました！

大会委員長の松村さんがこれまでのねんりんピックに参加して感じることは、まだまだ本来の「健康麻将」が理解されていないことを痛感することだそうです。ルール、マナーの浸透は県ごとにかなりの差があり、その点静岡県は最も優れていると自慢できるとのことです。

今後の活動方針として、県内では静岡と浜松の中間地(掛川市など)と伊豆方面に会員を増やしたいとのことです。

脳内をフル回転させ、指先の訓練にもなる「健康麻将」！男性も女性も交じって対戦する社交場として服装も自然にお洒落になります。まさに健康寿命の延伸に最適ですね！「NPO法人しずおか健康麻将の会」の今後益々のご発展を期待しています。

取材：静岡地区担当 生きがい特派員 竹内 章